

はじめに

本資料は、「道路環境影響評価の技術手法」（国総研資料第714号）の第1章計画段階配慮事項（全ての影響要因・環境要素に共通）のうち、動物、植物及び生態系に係る参考資料として、道路事業の「配慮書段階の検討」における検討の考え方と具体的な調査、予測及び評価の手法の例を示したものである。技術手法使用時の参考となれば幸いである。

「道路環境影響評価の技術手法」は、現在の科学的知見をもとに一般的な環境影響評価の手法をとりまとめたものである。ただし、これらの手法等はいくまで一例であり、実際には、各事業者が対象道路事業毎にこれらの手法等を参考としつつ、適切な手法等を選択することが望ましい。

なお、本資料が対象とする「配慮書段階の検討」は、事業の構想段階（道路事業においては概略ルート・構造を検討する段階）で実施するものであり、従来からの方法書以降の手続きに係る環境影響評価（EIA）と比べて事業計画の熟度が低い段階である。このため、検討の観点や検討スケールがEIAとは異なるものであり、既存資料等に基づく比較的簡易な手法により、広域的・大局的な観点から検討すべき点に留意する必要がある。

また、技術手法本文でも触れているが、構想段階の計画策定プロセスでは、経済面・社会面・環境面等の様々な観点から検討を行い、総合的な判断により概略計画を決定する。

「配慮書段階の検討」は、そのうちの環境面に関する検討として従来より行っているものであり、住民・関係者等の各主体との合意形成が重要であること、地域特性や地域の関心事項に応じて柔軟に対応しながら進める必要があることに留意する。